

## 資料室だより 133

## Peeters, Flor(1903-1986)

ベルギーの作曲家、オルガニストである Peeters をご紹介します。昨年資料室で彼のオルガン作品と宗教合唱曲をまとめて購入しました。それまで1冊もありませんでした。彼の作品はどれもグレゴリオ聖歌と深く結びついていますので当資料室の蔵書構成に必要と判断しました。

彼はレメンス・インスティテュートで van Nuffel のもとでグレゴリオ聖歌を学び、Depuydt のもとでオルガンを学び、Mortelmans に作曲を師事しました。最優秀の成績をおさめ、同インスティテュートの教授になります。ベルギー内のコンセルヴァトワールで教授職を歴任し、ヨーロッパとアメリカでもっとも有名な教師として知られます。古いフランドルの音楽やオルガンの教育用楽譜を作り、オルガン教授法の本をフラマン語、フランス語、ドイツ語、英語で出版しています。また実践的グレゴリオ聖歌の手引き書を英語とフランス語で出版しています。演奏家としても 1200 以上のリサイタルをヨーロッパ、フィリピン、南アフリカ、アメリカで行い 1946 年から 71 年にかけて 10 回の大陸横断演奏旅行を成し遂げています。彼はレメンス・インスティテュートでローマカトリック音楽家としての訓練を受けており、グレゴリオ聖歌から多くの靈感を受けています。またルネサンスに最盛期を迎えるフランドル楽派の多声音楽からも影響を受けています。

資料室だより 132 でご紹介したトゥルヌミールとは親友の間柄です。兩人ともグレゴリオ聖歌の伝統のなかで作曲活動をしています。

**Little Organ Book** は初心者のためのエキササイズですが、バッハ、パッヘルベル、イザークなどの曲例を挙げています。**Sixty Short Pieces for pipe or reed organ** は手だけで弾ける短い奏楽集です。**30 Chorale preludes, op 68** はルター派コラールに基づく前奏曲集です。**Ten chorale preludes, op 75,76,77** はグレゴリオ聖歌に基づく前奏曲集です。

合唱作品は、**Ave Maria, Pater noster**, いずれも小規模聖歌隊のために作曲されたと思われます。簡素なオルガン伴奏がついています。また、**Four old Flemish Christmas Carols** は彼の故郷であるフランドル地方の古謡を用いた彼ならではの選曲とアレンジです。フラマン語と共に英語がついています。**Easter hymn-Anthem, op 107a** は英語による復活賛歌となっていますが、テキストは、見ればヨブ記の「私は贖い主が生きていることを知っている」の部分です。ローマ典礼では死者のための聖務のレスポンソリウムで歌われるテキストで、ヨブの苦悩の独白の一部です。彼がそれを知らないわけではないと思いますがあえて復活のテキストに選んだということでしょう。

(杉本ゆり 記)